

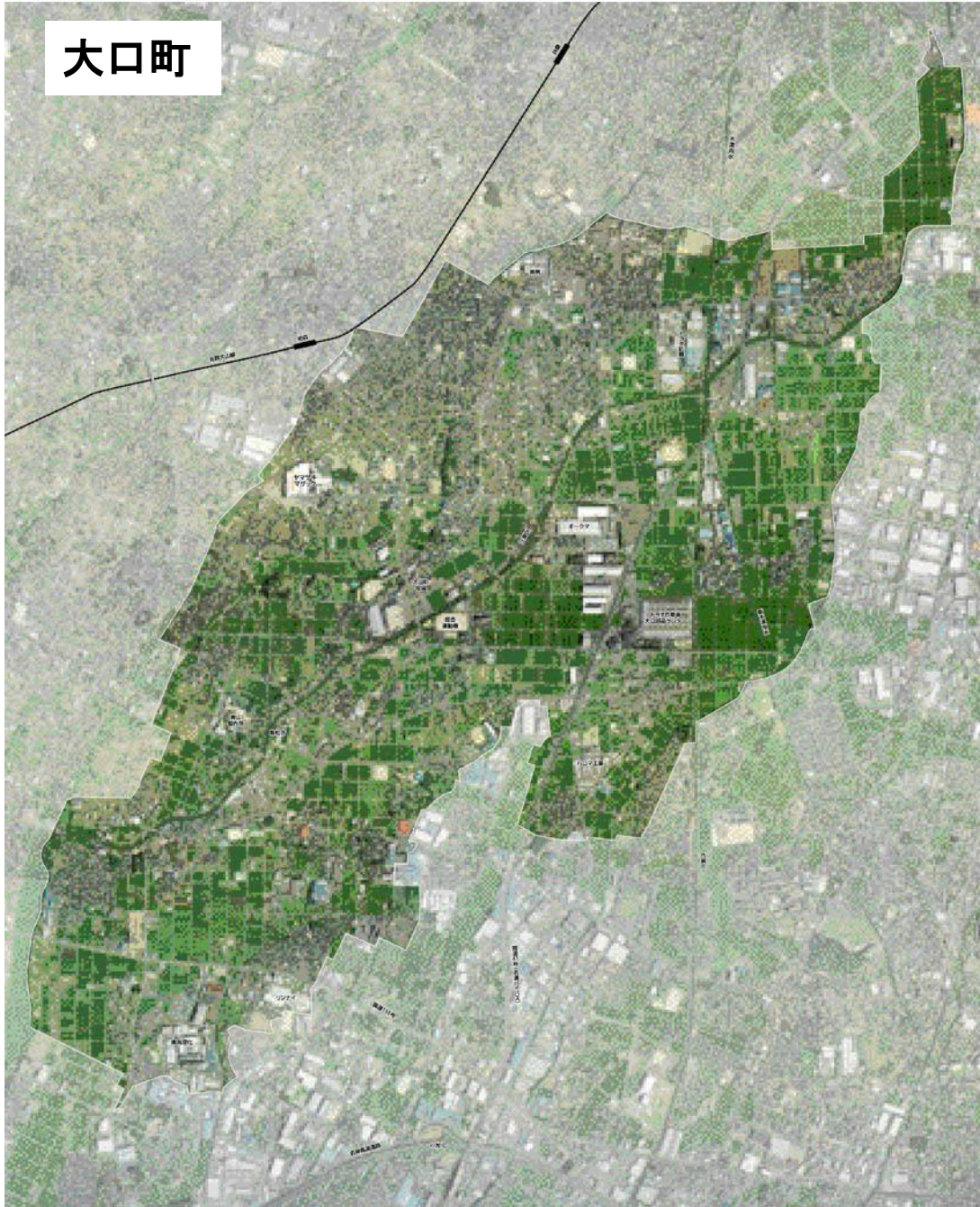
企業との連携による コミュニティバスの運行

2012年11月20日

大 口 町

地域協働部 地域振興課

大口町



基礎情報

- 人口 22,868人 (H24.11.1)
- 町の南北を国道41号、東西を国道155号が貫通
- 名古屋市から約18km、小牧ICから約2km
- 面積の約4割が農地、集落と昭和30年代に誘致した200余の事業所が点在し、昼間人口は約1.5倍になる

にもかかわらず…

公共交通機関は
大口町コミュニティバスのみ

■地域では…

- 公共交通機関がなく不便
- 通勤車両等による朝夕の交通渋滞が慢性化
- 交通事故の危険性
- 農地が駐車場に…

■企業では…

- 従業員送迎用バスが必要
- 自家用車通勤者のための駐車場用地の確保が必要
- 企業イメージの低下の恐れ（訪れるにも、タクシーがなければ徒歩しかない）

■地域再生計画の認定

- 交通弱者を守る交通環境づくり
- 騒音や大気汚染等の環境対策
- 住民同士の交流を促すまちづくり

■持続可能なバスシステムの基盤づくり

- 無料運行から有料運行へ
- 時間帯別運行システムの導入
- 通勤・通学の手段、来訪者の利便性、学童や高齢者の移動支援等を図る大幅なルート再編を実施

コミュニティバスの果たす多面的な役割



町民

通勤・通学

生活の足

コミュニティバス

送迎バスの回送時は空車状態。1社だけで運行。みんなが使えないの？

大町町を走るバスは、コミュニティバスだけ。それぞれで走らせたなら、もったいないのでは…

従業員
通勤支援

来訪利便

事業所

病院・商店

■朝のコミュニティバスは…

【地域⇒駅】は満員 【駅⇒地域】は空車

■朝の企業の従業員送迎バスは…

【会社⇒駅】は空車 【駅⇒会社】は満員



企業と行政が協力すれば、こうした二重構造のムダを省き、相乗効果を生み出せるはず

企業との連携を図る新たな運行システムへ

大口町

(事業の趣旨を説明)

- 企業への提案概要 —
- 企業周辺へのバス停設置
(ルート新設・変更含む)
 - ダイヤの変更 (始業時間に対応して)
 - 車両更新 (乗車数増加に対応して)
 - パスカード (定期券) の発行 (利便性に配慮して)
 - 有料広告 (車内・バス停、車体ラッピング) の募集



協力企業

(事業の趣旨に賛同)

- 企業の協力内容 —
- 運行支援費を拠出
(現在10社)
 - 有料広告の掲載
(現在33社)



エコ通勤の実践

毎月約5,100人(延べ)の
従業員が利用(平成24年9月)

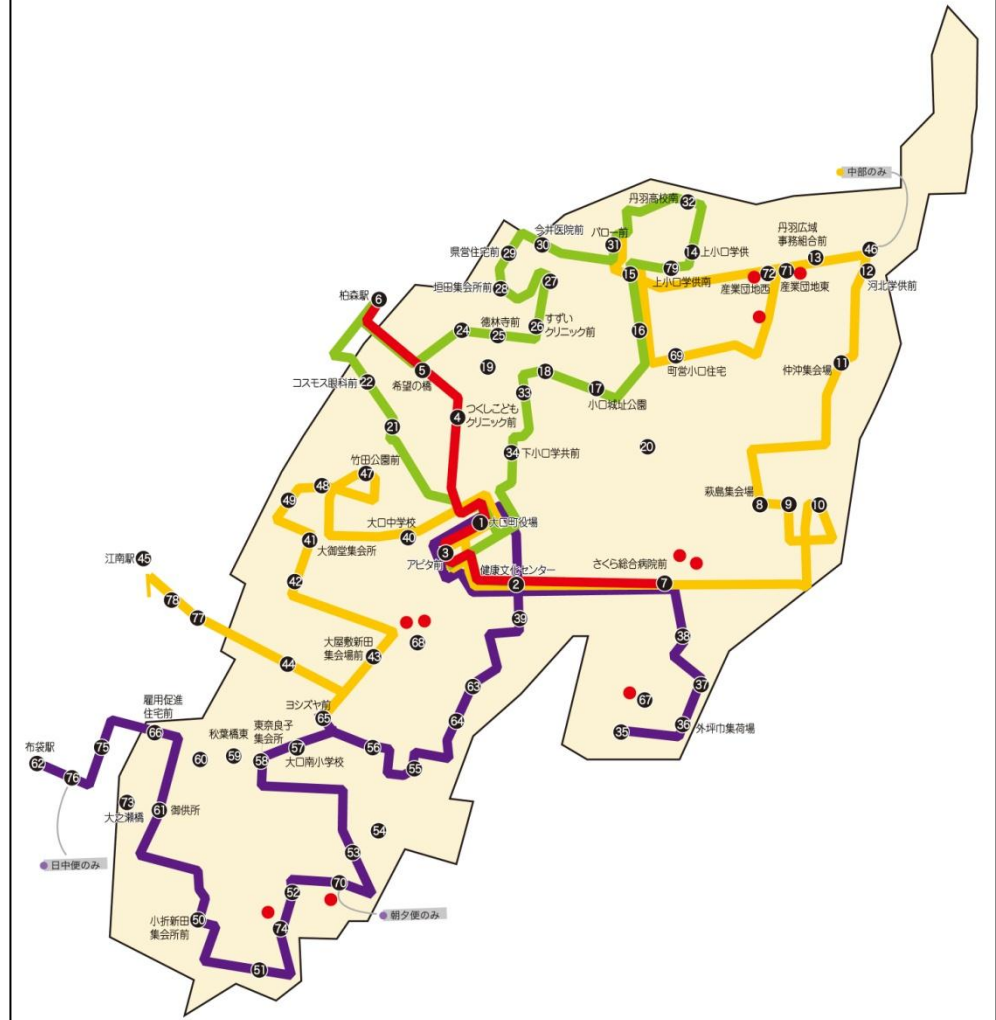
大口町コミュニティバス 路線図

平日 朝・夕運行
通勤通学便



大口町コミュニティバス 路線図

毎日運行便



パスカード（協定締結企業従業員に配布）



提示すれば乗車可能なパスカードを配布

利用料金 利用者数×運賃×利用日数

大口町コミュニティバス 路線図

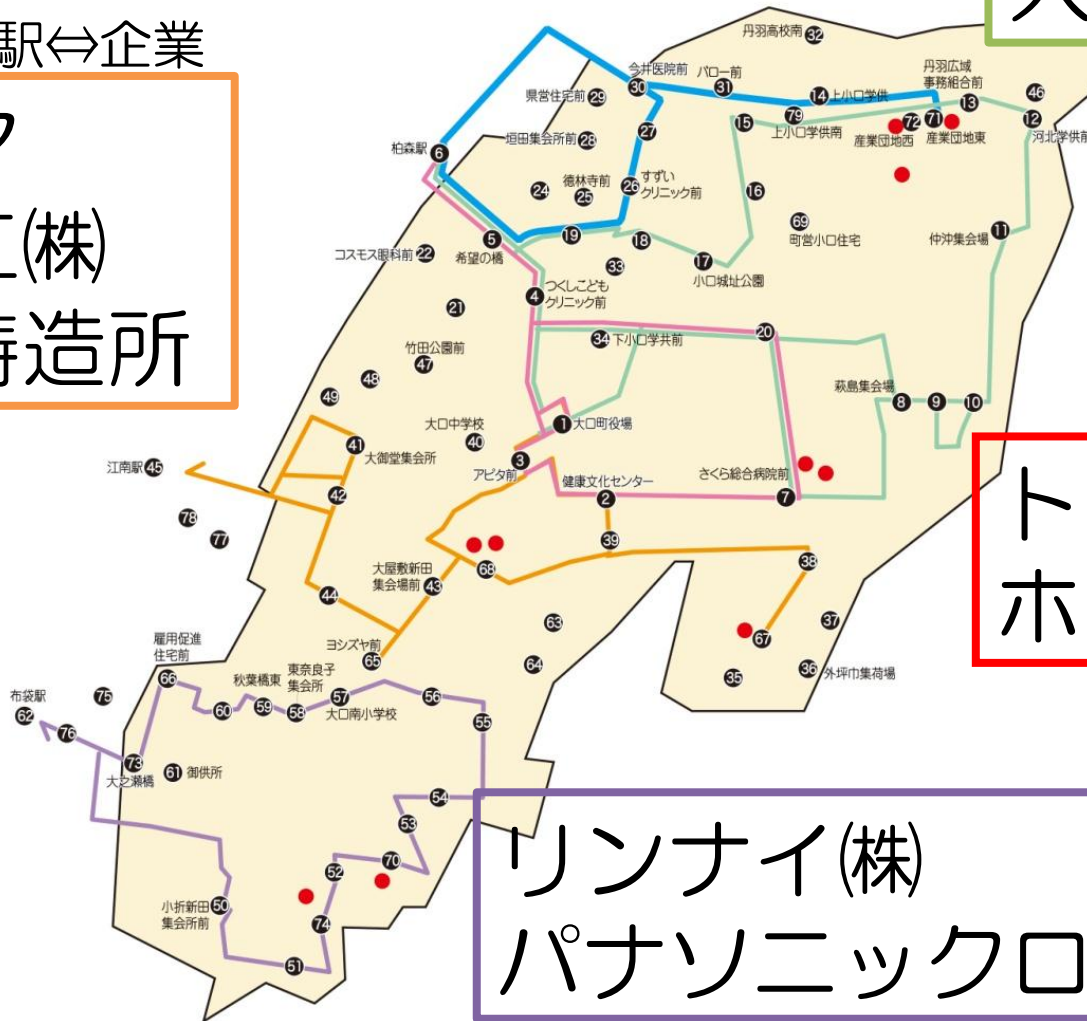
平日 朝・夕運行
通勤通学便

名鉄柏森駅⇔企業

象印マホービン(株)
(株)富士エコー
大和グラビヤ(株)

名鉄江南駅⇔企業

(株)パロマ
日本紙工(株)
(株)東海鑄造所



名鉄柏森駅⇔企業

トヨタ自動車(株)
ホンダロジコム(株)

名鉄布袋駅⇔企業

リンナイ(株)
パナソニックロジスティクス(株)

車内広告



ラッピング広告



企業との連携で
朝・夕の乗客は増加したが・・・

毎日運行便（9時～17時）の
利用者数は伸び悩んでいる

どのように利用者を増やすか？

住民団体と協働で

エコモビやコミバスの重要性を
伝える情報発信やイベントを通じ

住民全体を巻き込んでいく

コミュニティバスサポート隊との連携が始まっています



平成24年11月3日・4日 ふれあいまつりにて